

北海道野幌高等学校

課程 全日制
学科 普通科
生徒数 855名

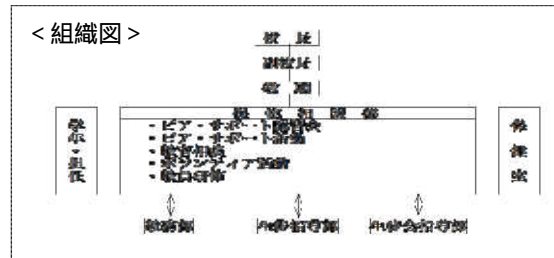
1 取組の特徴

生徒に対するコミュニケーション能力育成のための講義やトレーニングを計画的に実施するとともに、生徒一人一人の学校生活への適応能力を向上させる。また、教員・保護者に対し、予防的・開発的教育相談や集団的カウンセリングの手法などの周知・普及を図り、教育活動のさまざまな場面で生徒のコミュニケーション能力を高めることができるようにする。

2 取組のねらい

基本的な生活習慣や学習習慣が十分身に付いておらず、また、コミュニケーション能力が低く、基礎的学力等が身に付かないまま入学した生徒に対し、さまざまな問題の克服に対応するために、外部の専門的な知識・技能を有するカウンセラー等を活用するとともに教員が専門的な知識や技能を身に付ける必要がある。

<組織図>



3 取組の経過

ボランティア活動

- ・あしなが学生募金
- ・老人ホーム訪問

不登校生徒及び退学者数の調査
子ども理解支援ツール「ほっと」の実施
(2学年)

取組の成果と課題の整理

- 6月 学習環境適応調査アセス
- 11月 学習環境適応調査アセス
スクールカウンセラーを講師とした
教員研修(教育相談に関する研修)

- 12月 ピアサポート・トレーニング
(生徒会生徒対象)
- 1月 人間関係づくりを支援するための構成的グループエンカウターの実施
(1学年対象)
- 2月 スクールカウンセラーを講師とした
保護者対象の研修会の実施

4 取組の内容

1 アセス(学校適応検査)の状況

- (1) 日 時 平成24年6月29日、11月30日
- (2) 対 象 1学年・2学年全クラス(それぞれ2回実施)
- (3) 結 果

1学年・2学年ともに「教師サポート」で要支援領域に分布する生徒が多かった。2学年は、2回目で要支援領域に分布する生徒の割合が減少したが、1年生では「教師サポート」、「非侵害的関係」で、要支援領域に分布する生徒の割合が増加した。

2 教員研修

- (1) 日 時 平成24年11月27日（火）13時30分～15時00分
- (2) 対 象 教職員
- (3) 内 容 本校のスクールカウンセラーを講師として、カウンセリングの手法について学んだ。講演内容が具体的で詳細であったことから、教員から事例を通しての質問が出るなど、実践的な講演会となった。また、カウンセリング全般に対する知識・技能を得ることができた。

3 生徒会役員を対象としたピアサポート講習会

- (1) 日 時 平成24年12月14日（金）15時30分～16時30分
- (2) 対 象 生徒会役員12名参加
- (3) 内 容 生徒会役員を対象に、互いにサポートする気持ちと技術を積極的に育成することをねらいとした。今回はまず自己理解について、様々な手法を通して理解を深めた。また、ワークショップ等を行い、他者理解、相互理解を深め、互いにサポートする気持ちと技術を育成することができた。

4 構成的グループエンカウンター

- (1) 日 時 平成25年1月23日（水）5、6校時
- (2) 対 象 1年5組・1年7組
- (3) 内 容 学級内の人間関係が希薄になっていることから、エンカウンター（本音を表現しあい、互いに相手を認め合う体験）する機会が少なくなり、ワーク等を実施することで集団の中で構成的グループエンカウンターを体験し、心の成長を図ることをねらいとした。望ましい人間関係の構築や思いやりの心の重要性について学んだ。

5 保護者を対象としたカウンセリング講習会

- (1) 日 時 平成25年2月6日（水）13時00分～15時00分
- (2) 対 象 本校保護者
- (3) 内 容 カウンセリングの基礎を学び、家庭教育に活用し、本校生徒の健全育成を図ることをねらいとした。カウンセリングに関する様々な手法を通して、家庭教育を進めることについて理解を深めた。

6 ボランティア活動（あしなが学生募金）（計7日間）

- (1) 日 程 平成24年4月21日～10月27日
- (2) 対 象 ボランティア部21名
- (3) 内 容 奉仕活動などのボランティア活動を通して、望ましい倫理観・道徳観を身に付け、心身ともに健やかな成長を図り、コミュニケーション能力の育成を図ることができた。

7 ボランティア活動（老人ホーム訪問）

- (1) 日 程 平成24年4月23日～平成25年2月12日（計14日間）
- (2) 対 象 ボランティア部11名
- (3) 内 容 奉仕活動などのボランティア活動を通して、望ましい倫理観・道徳観を身に付け、心身ともに健やかに成長する。老人ホームを訪問し、お年寄りの話し相手になったり、室内の清掃活動、洗濯物の片付けなどの活動を行った。

5 次年度に向けて

1 成果

- (1) 中途退学者数及び不登校生徒数の推移
中途退学者数はほぼ横ばいであるが、不登校生徒数は1名であった。
- (2) その他の指標による評価
保健室来校者数は30%ほど減少した。
生徒一人当たりの欠席日数はわずかではあるが減少した。
- (3) 生徒の変容した姿
ピア・サポート講習を受けた生徒は周囲の者への気配りを重んじるようになり、社会や学校・学級の様子に関心を深め、自分にできることは何かを考え、所属するクラスで主体的に学級活動に参加するようになった。

2 課題

周囲の者と適切なコミュニケーションがとれないことから、コミュニケーション不足による人間関係のトラブルや問題行動、ひいては社会性の欠如につながるケースが見られた。

3 次年度に向けて

今年度の成果を受けて、より効果的なコミュニケーションスキルや人間関係を形成する能力の育成を図る。また、教員研修をより充実させ、ピア・サポートなどの取組を行うための実践的な指導力や「アセス」の効果的な活用方法などを身に付ける機会を設ける。生徒に対しては「アセス」を全学年に継続的に実施し、自己理解・他者理解を深めさせ、学級適応感を持たせる指導を充実させ、コミュニケーションスキルの向上を図る。